



お父さんお母さん

合同避難訓練

9月28日に児童デイ・中高生デイ合同で避難訓練を実施しました。突発的な災害時にはそれぞれの事業所の職員同士の協力、連携が求められるので、その為の合同練習です。

建物の外へ避難する際、2階にある中高生デイの方が、階段があつて移動距離も長く、体格も大きい子が多いので避難に時間がかかることが予想されます。

今回の訓練では「移動が困難な体格の大きい利用者を職員が連携して安全に避難場所まで移動する」という課題を設けて実施しました。

当日はシュミレーション通りの動きができましたが、担架を使った階段の移動は予想以上に時間がかかってしまい、反省点となりました。

子ども達よりも「職員の訓練」の要素が強かった今回の避難訓練でしたが、子ども達の方とはいうと、素早く手順通りに動いてあつという間に避難完了。その落ち着いた姿に感激しました。



職員がモデルになって担架による階段移動のシュミレーションをしました。担架は縄で手作りしました。



1階での避難の様子。防災頭巾をかぶり、いざ非難!



ヘルパーだより NO. 6

「なんでもやれる」「自分でやります」の精神で、気持ちはいつも前向きなA夫さんは、9月に87歳になられました。妻B子さんは85歳で「ヘルパーさんが来てくれると急に元気がでます」と話されます。

二人暮らしで、要介護2のA夫さんと要支援2のB子さんは、週3回、入浴や、食事の準備に介護保険を利用されています。

若いときは、自宅で繊維のお仕事をされ、「昼夜仕事に追われ、子育てもどうやって育てたか、覚えがないくらい」と言われます。

A夫さんは仕事を引退した後、脊椎の病気で車椅子生活になり、介護者であったB子さんも、ペースメーカー装着や両下肢に浮腫みがみられます。

先月には、胸に激痛があり、まごころに通院介助の依頼があり、病院の付き添いを行いました。肋骨にひびが入っていて、痛みで声も出ないB子さんに付き添い、初めての受診で時間もかかり自宅へ戻ると、A夫さんが、玄関の戸を開け、歩行器に捕まりながら、外をみておられました。B子さんの事が心配で、いても立ってもおれなくて、不自由な体で玄関に立ち、待ってられるA夫さんの姿を見たとき、胸が熱くなりました。

これからも、「負けん気」で好きなコーヒーを飲みながら、お二人共お元気で、過ごしてください。私たちヘルパーも応援しています。



利用者さんからのことば・・・

まごころさんにはお世話になって、いつも感謝しています。私たちの夢は、早く元気になって、お父さんの運転する車でまたいろいろな所へ行きたいと思っています。

デイサービス通信



～それぞれの居場所～

9月3日(月)デイサービスまごころが誕生しました。

初日のスタートは2名の利用者さんを迎えて、ハッピーバースデーのキャンドルでお祝いしました。お散歩を楽しまれたKさんは、「緑が多くていい処だねー」と街中であつて、隣の九品地公園の緑の多さにご満悦でした。真新しいエプロンを身に着けMさんは「おやつ作り」に参加して、フルーツゼリーを完成されました。お昼寝したり、おしゃべりや足湯を楽しんだり、この日は相田みつおの詩歌にふれ、好きな言葉を選び「書画」にも取り組んでいただきました。

ここでは、自由に時間を過ごせるよう、それぞれの利用者さんに合わせて、プログラムを用意しています。

この場所が、家庭と同じく、『居心地の良い、くつろげる場所』でありたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。



ハッピーバースデーまごころ!

心づれづれ



テレマカシー

「ありがとう、サンキュー、テレマカシー」90歳で亡くなった祖父の口癖だった。

いつも元気で国内外どこへでも出掛けて行くような祖父だったが、ある日急に食が細くなり元気がなくなった。体の調子が悪いのは明らかだったが「病院へ行くまでもない」と受診を拒む祖父に家族は途方に暮れてしまった。

往診をしていただける先生を探し、在宅診療をお願いした際、壁一面に貼ってある思い出の写真を見て先生は「最期まで、この部屋で過ごさせてあげましょう」とおっしゃった。医療に全く無知であった家族にとって、在宅での看取りはかなりの決心が必要だったが、先生の「何かあつたら何時でも私に電話してください。いつでも飛んで来ますから」という言葉に覚悟ができた。

それから亡くなるまで、往診に来ていただく先生、看護師さん、ヘルパーさん、家族らに対し、「ありがとう、サンキュー、テレマカシー」と感謝を伝え続けた祖父。ヘルパーさんは祖父の歌に合わせて踊って下さったりもしたそうだ。私たち孫にも「おじいちゃんが死んでも泣かないでほしい。幸せな人生だったから。その時が来たら万歳と言ってほしい。」と言ひ残してくれた。

不安の大きかった在宅介護だったが、先生をはじめ、たくさんの方々の支えにより最期まで祖父らしさを失くすことなく過ごすことができたことに感謝している。

(※テレマカシー…インドネシア語でありがとう)

協力会員 大野千晶

